資料2

前回指摘事項

鉄鋼業界における負荷削減対策投資額と負荷量との関係

表2-1　COD負荷量削減対策に係る投資額と負荷量

		S54以前	1次	2次	3次	4次	5次	6次
瀬戸内海	投資[億円]	350	24	0	3	16	0	26
	COD[t/日]	不明	20.6	14.6	13.4	11.6	12.4	10.2
うち大阪湾	投資[億円]	不明	不明	不明	不明	不明	不明	7
	COD[t/日]	不明	不明	不明	不明	不明	不明	0.4

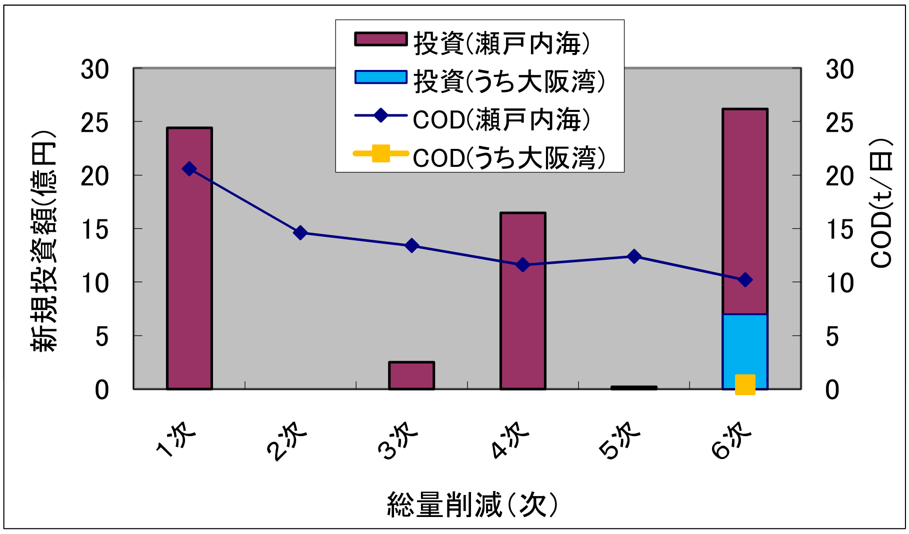


図2-1　COD負荷量削減対策に係る投資額と負荷量

表2-2　窒素負荷量削減対策に係る投資額と負荷量

		規制以前	5次	6次
瀬戸内海	投資[億円]	11.43	4.10	4.19
	窒素[t/日]	不明	40.6	23.0
うち大阪湾	投資[億円]	不明	不明	0.18
	窒素[t/日]	不明	不明	1.0

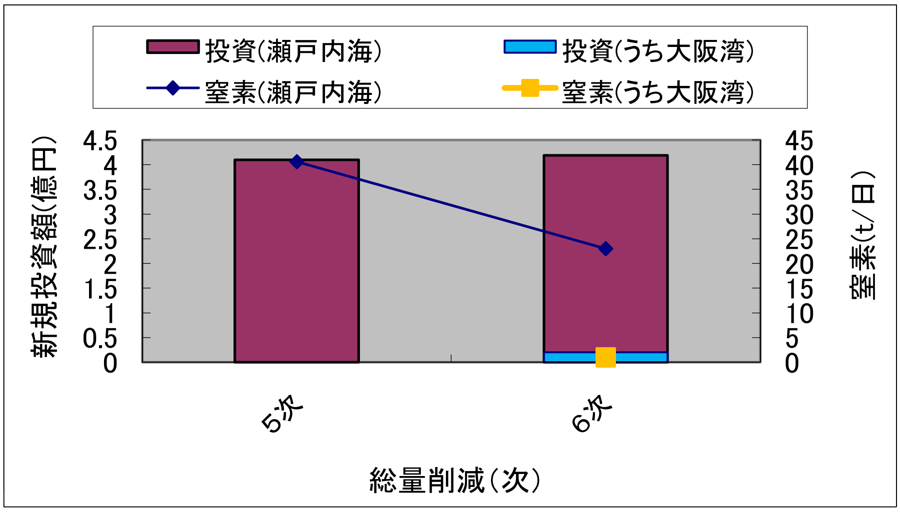
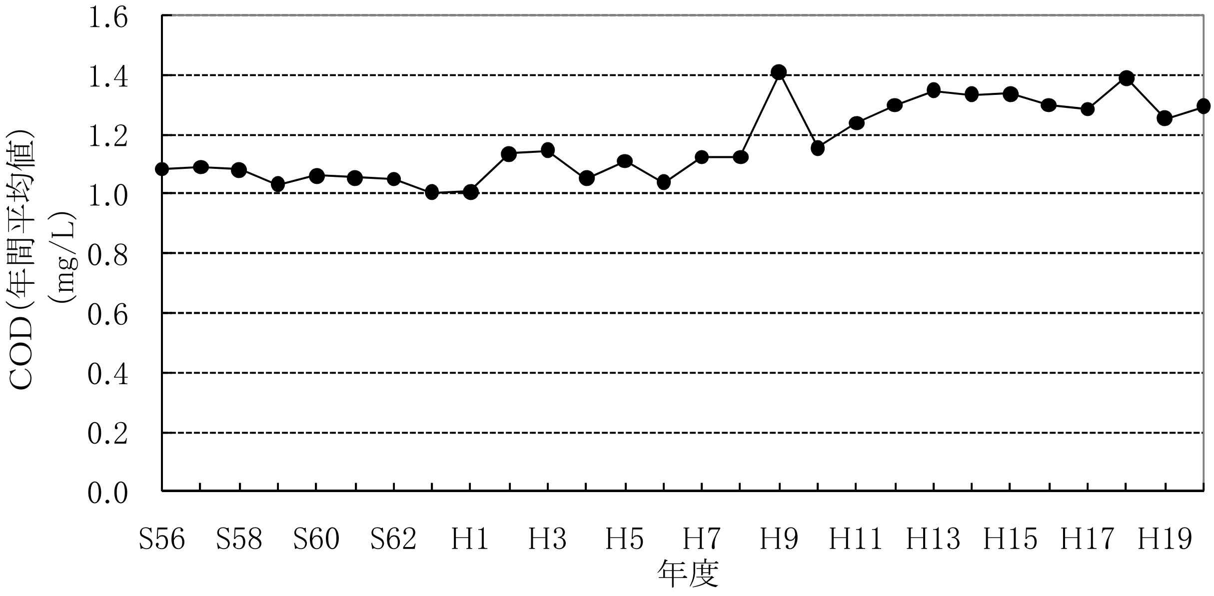


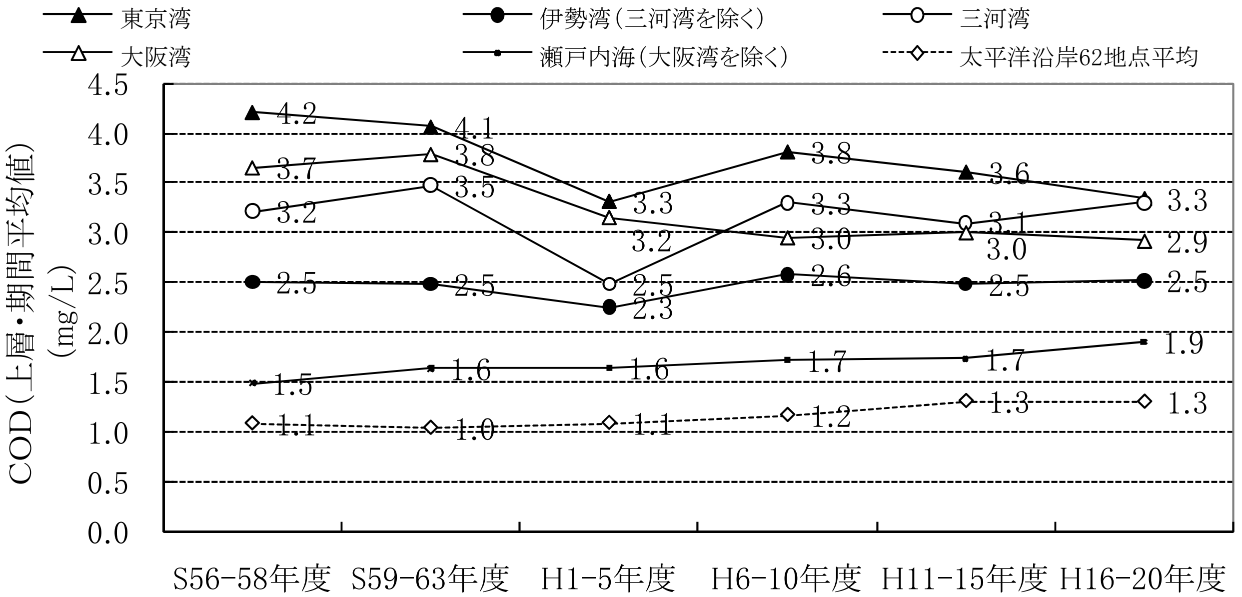
図2-2　窒素負荷量削減対策に係る投資額と負荷量

太平洋沿岸域の COD レベルを考慮した
補正 COD 濃度の現状及び推移



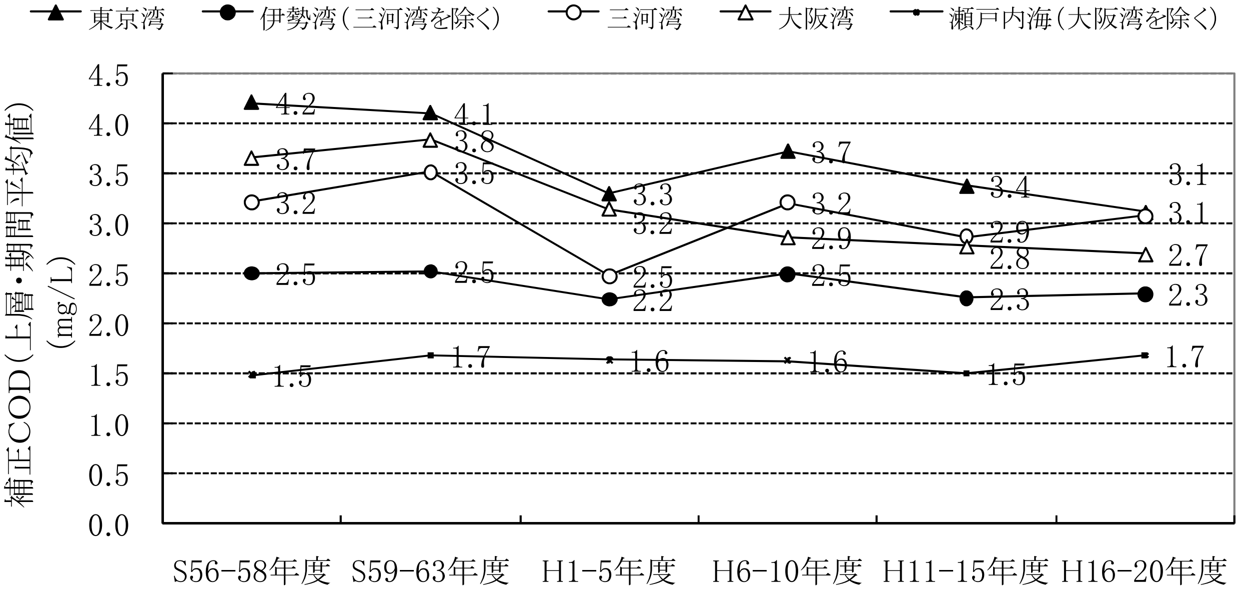
出典）公共用水域水質測定結果（環境省）
備考）黒潮の流路に近接する太平洋沿岸県の環境基準点のうち、閉鎖性海域、港湾及び漁港等の陸域の影響を受けやすいと考えられる環境基準点を除外した 62 地点の平均値。

図 2-3 太平洋沿岸における平均 COD 濃度の推移



出典）太平洋沿岸 62 地点平均については、公共用水域水質測定結果（環境省）。その他の海域については、広域総合水質調査（環境省）

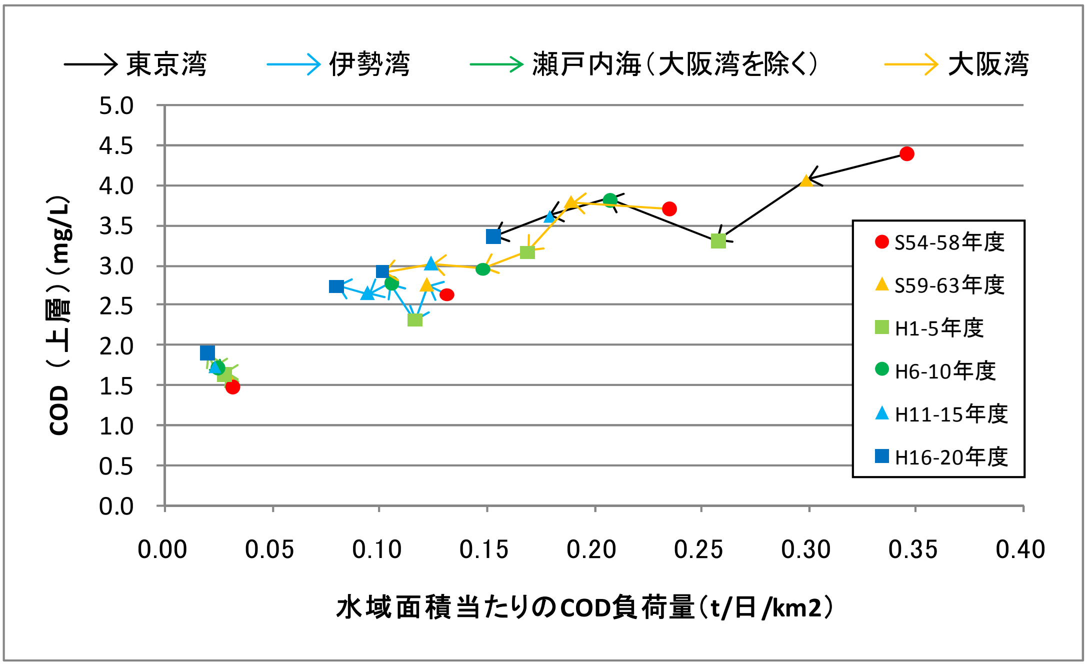
図 2-4 海域別の COD 濃度の推移

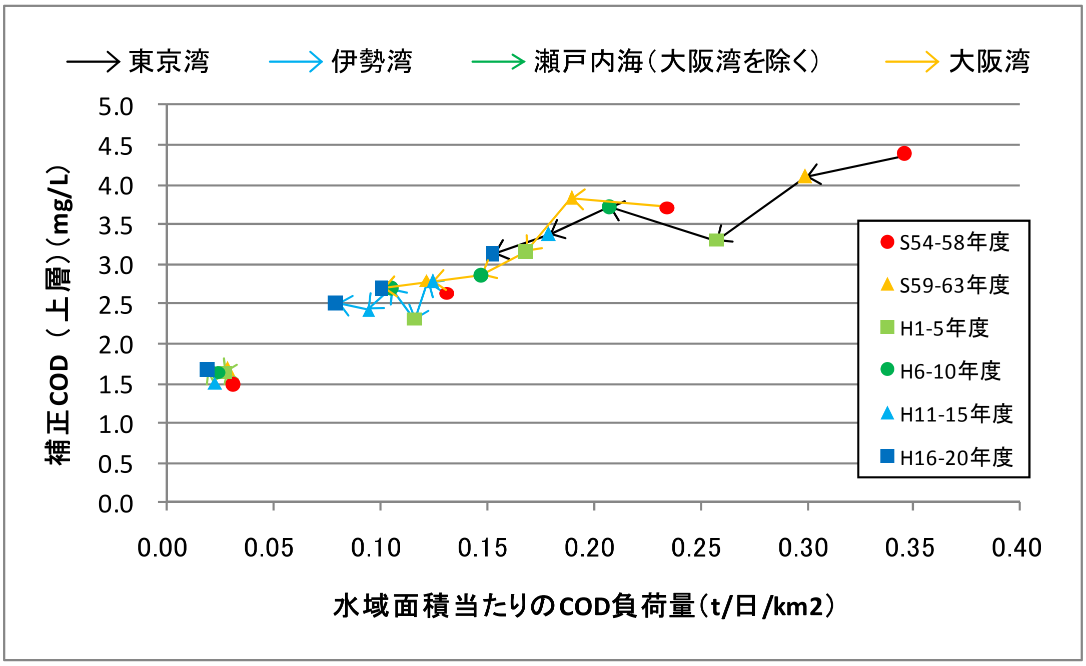


出典）広域総合水質調査（環境省）、公共用水域水質測定結果（環境省）
備考）補正 COD とは、各指定水域の COD から、昭和 56～58 年度の期間平均濃度を基準とする太平洋沿岸における平均 COD の変化分を差し引いた値。

図 2-5 海域別の補正 COD 濃度の推移

負荷削減と補正 COD 濃度との関係



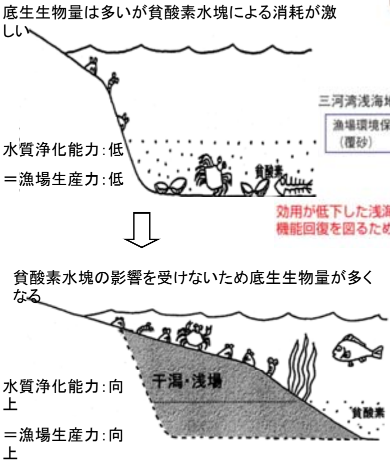
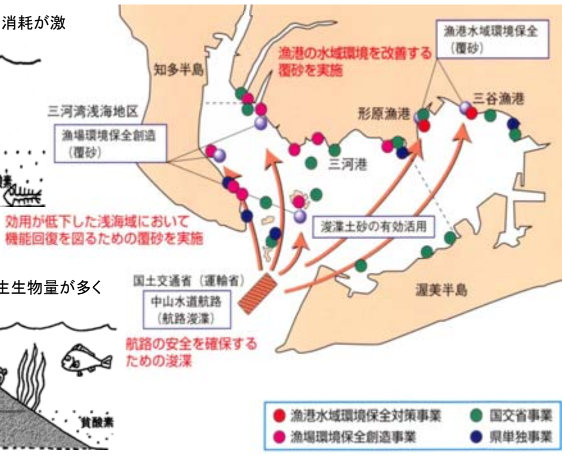
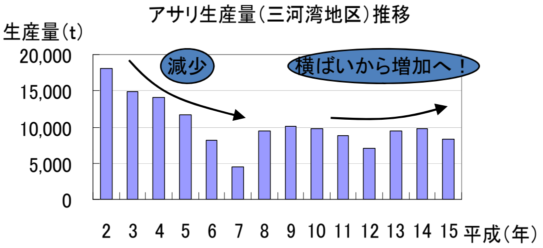
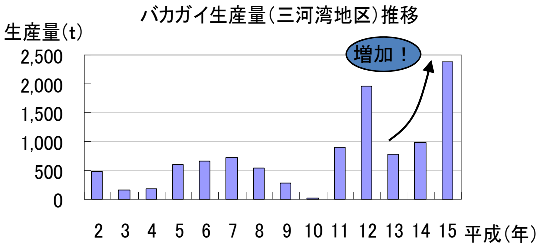


注）発生負荷量については第 1 次～第 6 次総量規制開始年度の値を、水質については各総量規制期間中の平均水質を用いた。
備考）補正 COD とは、各指定水域の COD から、昭和 56～58 年度の期間平均濃度を基準とする太平洋沿岸における平均 COD（公共用水域水質測定結果）の変化分を差し引いた値である。

図 2-6　水域面積あたりの発生負荷量と COD 濃度の推移

干潟･浅場造成の取組による効果の事例(愛知県三河湾地区)

【課 題】
浅海水域(水深10m程度)の閉鎖性、流入河川の環境負荷、埋め立てによる干潟喪失等により、海底は貧酸素状態
↓
二枚貝の生息が困難となり、水質浄化機能、漁場生産力が低下(アサリの漁獲量が減少)

【事 業 ・ 取 組】
･浚渫土砂を利用し干潟･浅場造成、覆砂を実施。
(国土交通省との事業連携により浚渫土砂を調達)

【事 業 効 果】
干潟･浅場造成により、アサリ、バカガイ等二枚貝の良好な漁場が形成されるとともに、造成した場所にアマモの繁茂も確認された。
↓
二枚貝類生産量の増大(グラフ参照)